

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4073800469		
法人名	社会福祉法人 同朋会		
事業所名	グループホーム 国分		
所在地	福岡県太宰府市宰都2-8-12 (電話) 092-918-8288		
自己評価作成日	平成 25 年 9 月 7 日	評価結果確定日	平成 25 年 11 月 8 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

利用者様がその人らしく生活出来るような環境作り、生活リハなどを支援している。
また、天候の良い時期は、バスハイクやドライブ・散歩など外出し、外の雰囲気を感じることが出来る様に配慮している。
当ホームでは終末期の介護は想定していないが、法人内に老健・特養があり、利用者の状態に応じて施設を移動することが可能となっている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会	
所在地	福岡県春日市原町3-1-7	
訪問調査日	平成 25 年 9 月 26 日	

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

御笠川と九州自動車道が交差する場所に位置し、同一法人が運営する老人保健施設、ケアハウス、デイサービス施設と同じ敷地内にある建物の3・4階部分に事業所がある。窓からは宝満山など緑豊かな景色を見ることができ、利用者が落ち着いて生活することができる。また、利用者と職員は静かな雰囲気、ゆっくりとした時間を共有しており、利用者と職員の良い信頼関係が構築されていることがうかがえる。周りは賃貸住宅がほとんどで、近隣住民との関係構築は難しいが、地域との関係構築のために事業所は努力している。

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	1人1人と向き合い、傾聴受容の姿勢を心がけ、その人らしい暮らしを支援していきたいと努力している。又、グループホーム会議等で情報、状態などを共有、実践している。	「地域との交流の中で その人らしい生活の支援」という事業所独自の理念を玄関へ掲示するとともに、全体の職員会議やフロア会議で復唱している。また、職員間で注意し合い、理念の実践に向けて取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	当所にはボランティア企画担当者があり、頻りに地域ボランティア団体や幼稚園、大学、専門学校、利用者ご家族などの交流がある。	近隣の保育園と法人が共同開催している夏祭りには地域の方も参加し、交流が図られている。その他、家族による楽器演奏のボランティア、幼稚園児や小学生の定期的な慰問、専門学生等の実習も受け入れている。今春、地域のカラオケ教室から招待があり、利用者数名が参加し、地域の方と親睦を深めている。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	夏祭りは代表的なもので子供からお年寄りまで外部の方、又は近隣の方々に開放し、理解を求める取り組みをしている。また、介護教室などを法人で開催し、地域への貢献を図っている。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に行い、外部の方々、民生委員、市、家族との意見交換、情報サービス向上・スキルアップに努めている。また、地域の情報を聴いている。	2ヶ月に1回開催している運営推進会議には、利用者や家族、行政職員、自治会長、民生委員が参加し、利用者やサービスの状況、評価への取組状況等を報告し、運営についての話し合いを行っており、地域住民からも活発な意見が出ている。特に防災に関する地域との連携に関して意見が挙がっており、事業所としても前向きに検討している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の中で身体的問題の相談、ケアの進め方などアドバイス・指示を仰いでいる。通達された事には迅速に対応できるようにしている。	日頃から行政と電話でやり取りを行い、協力関係を築くように努めている。困難な事例があった場合等はすぐに電話で相談をしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	当施設は4階建と立地面では問題等も残り、帰宅願望者がエレベーター前に立たれた場合、階を変えユニットへの場面替えや外出に対応している。やむを得ずロックはしているが、そのことでご家族に許可は得ている。	玄関はセンサーを設置しているが、日中は施錠はしていない。職員は利用者の行動をできるだけ見守っているが、建物の3・4階にある事業所であるため、玄関脇のエレベーター操作盤のみ家族に説明し、同意を得た上でロックしている。身体拘束に関するマニュアルは整備されており、職員研修も実施されている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	グループホーム会議、フロア会議などで虐待に関する話はしている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域（市）等の学ぶ機会を利用参加している。	契約時や利用開始時に、利用者や家族に対し、パンフレットを基に成年後見制度等の権利擁護に関する制度について説明を行っている。職員に対して、権利擁護に関する制度についての研修等は行われていない。	全職員が権利擁護に関する制度についての理解を深めるためにも、計画的な研修の実施をしていただきたい。
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書などで説明し、十分な納得を頂いている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会、来所の折に希望要望など伺い、その都度、職員と共有し、反映している。また、状態が変化した場合にも、電話連絡などをご家族に差し上げ、逐一報告を行っている。	利用者や家族は運営推進会議に参加するほかに、年1回（4月）の家族会や事業所玄関に設置してある意見箱を利用して、意見や思いを述べる機会がある。利用者の要望で外出や外食の機会を増やしたり、利用者の健康を心配する家族の要望に応え、受診の回数を増やす対応を行っている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの提案があればフロア会議等で話し合い、反映している。	今回の自己評価は、職員全員の意見を反映させたものである。管理者は、フロア会議で発言が少ない職員に対しても発言できるように配慮し意見等を聞くようにしている。その他、職員は事務長と個別に話す機会も設けられている。離職や異動を必要最小限に抑えるため、シフト作成に際し、できるだけ希望休暇を取り入れるようにしている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の特技を生かし、役割等を考慮して個別ケア、環境整備に生かしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	現在、介護職員の求職者が少なく、選べる状況ではない。しかし、個々の職員が生き生きと働ける環境が出来ている。	採用や選考にあたっては、年齢や性別等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、採用後の配置や教育等においても差別することは無い。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	管理者が核となり、利用者に対しての接し方、人権教育などを行っている。	人権尊重についての資料は整備されており、職員は日々意識して利用者の支援に取り組んでいる。職員に対して、人権に関する研修は行われていない。	全職員が人権教育・啓発活動について理解を深め取り組んでいくためにも、計画的な研修の実施をして頂きたい。
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での研修、地域医療連携研修、並びに資格研修など、仕事に支障のない限り参加している。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ネットワーク作りまでは行っていないが、近隣の同業者との交流は時々行っている。同法人内のグループホームの交流はある。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	以前の生活環境、生活歴を基に心の信頼を計り、ご本人が安心できるような生活支援に努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談者の話をよく聴き、理解し、私どもの協力を理解していただける様に説明に努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当ホームの利用に繋がらなくても、その方にあったサービスの利用、導きを心がけている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活全般を利用者と共に行い、今まで培ってこられた事を頂きながら、共感共生に基づき生活している。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	情報はご家族と共有し、良い関係でサービス提供を行っている。状態の変化があった時にも、報告・相談をし、その方にあったサービスを一緒に考えている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人を招いたり、以前の居住地へ共にドライブに行くなど、関係が途切れないよう支援に努めている。	管理者は、利用者の馴染みの関係を利用者の家族から聴取している。利用者の知人や友人に事業所を訪問してもらったり、電話で連絡を取る等、関係の継続を支援している。地域住民とは法人の夏祭りやイベントを通して交流を図り、関係が継続できるような支援をしている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃の日常生活のなかで、利用者同士が関わり合えるような環境づくりに努め、支援している。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方などにも、時には面会をしたり関係が途切れない様にしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	生活歴などを基に、心地よく興味をもたれ生き生きとした生活が出来る様支援している。	利用者一人ひとりの思いや希望を日々の会話の中で把握している。「朝イチに新聞を読みたい」「隣接施設のケアハウスに居る夫と食事に行きたい」等、暮らし方の希望や意向の把握に努め実践している。意思疎通が困難な方には、家族の情報や日々の行動・表情からその真意を推し測り汲み取っている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	以前の暮らし方、生活環境は利用者本人、担当者、ケアマネから情報を得ている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来ないと決めつけず、一緒に過ごしなが出来ない方には個別に支援している。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の現状、生活歴等を元に話し合いの場を持ち、ご家族の想い、希望等を反映してケアプランの作成をしている。	介護計画作成担当者が中心となり、本人や家族、介護職員等の意見が反映された利用者主体の計画書を作成し、家族の訪問時や支払い時に確認している。介護計画書は3ヶ月に1回、また利用者の状態変化や状況に応じて見直しを行い、その都度家族への説明を行い、署名・押印をもらっている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに基づいたサービスの記録記入、また気づきがあれば色分けし、次回ケアプランに生かせるような取り組みを行っている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々ニーズに沿って、利用者本人、職員が一緒になり柔軟な取組をしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア受入れの強化、持続性を繋げていける様、担当者を置き交流の場を展開している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約医療機関と連携し、突発的変化等があれば、直ぐに相談等出来る関係を築いている。	事業所協力医のほか、利用前からのかかりつけ医の受診を支援している。家族と話し合い、通院介助は事業所が同行している。また、月2回の訪問診療、複数の医療機関との関係を密にしている。受診時の通院介助の方法や情報の伝達方法について家族と合意している。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在、看護師の配置はないが併設施設（老健）看護師の指示も仰ぐこともある。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院先のソーシャルワーカーとの連携を大切に、今後の備えの努力をしている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当ホームでの看取りは行っていない。同一法人の特養や老健への移行について、相談委員会の場を持ち支援している。	重度化や終末期のあり方について、事業所の対応方針は特にない。併設の介護老人保健施設（医師常駐のため）への移行を、法人の相談員会議で討議し、利用者・家族・事業所で話し合って、合意を図り支援している。	重度化した場合や、終末期のあり方について、事業所が対応し得る最大のケアについての方針・指針を作成・明文化し、事業所と利用者・家族が共有することで、少しでも家族の不安が取り除けるよう、取り組んでいただきたい。
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急搬送マニュアル作成、緊急連絡網の徹底、併設（老健）等の勉強会の参加。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練（年2回）行っている。非常階段は使用できない利用者が多いので、まずベランダへの避難誘導している。隣接の住宅との話し合いは行っていない。	マニュアルを作成し、併設している老健やケアハウスと合同で、年2回、消防署の協力を得ながら避難訓練を実施している。非常用食料・備品等は併設施設と共有して併設施設の1階倉庫に備蓄している。飲料水のみ事業所厨房に備蓄している。	避難訓練を実施する際は、運営推進会議や自治会を通じて地域住民へ参加協力を呼びかけたり、災害対策に関する理解を求め協力体制を築いて欲しい。非常用備蓄品の場所は全職員で把握していただきたい。
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として敬い、誇りやプライバシーを損ねない様気をつけている。	職員は利用者の気持ちを大切にし、さりげないケアを心がけている。日々の関わり方についてミーティングで職員の意識向上を図っている。利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応に努めている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者1人1人の希望が叶うように寄り添いながら努力している。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の体調を優先し、また個人の希望にも添えるように心がけている（個別ケアを大切にしている）		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	おしゃれが好きな方に対しては化粧品の準備、洋服の考慮、また外出時、行事等参加の時もサポートさせて頂いている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理、片付け、配善、盛り付けなどは手伝いをお願いし、楽しみなものであるよう支援している。	朝夕食は、併設の老健施設厨房から配膳され、昼食は、利用者の好みや力を活かしながら、職員と一緒に買い物・準備・片付けをしている。職員も同じ食事を一緒に摂っている。時々行われる庭でのバーベキューや回転寿司、うどん、バイキング等の外食は、利用者にとって楽しみの一つになっている。	

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるように、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量の記入、体重の増減に注意し、水分補給は時間に応じて補給して頂いている。また、本人が自由に飲用できるようにしている。チェック表も作成している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケア（うがい）等の徹底、また夜間は義歯をお預かりし、口腔内の清潔を保持している。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄・排便チェック表の記入し、排便コントロール、トイレ誘導もさせて頂いている。	職員は、利用者一人ひとりのサインを把握しており、さり気なく排泄支援をしている。尿意のない利用者には、排泄チェック表を用いて時間を見計らい誘導している。トイレでの排泄を大切にしながら、紙パンツ・パット類も本人に合わせて検討し使用している。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入浴時の腹満に気をつけ、その都度下痢のコントロール、食事の工夫、水分補給、運動等を取りいれている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	本人拒否がある場合は無理せず、時間を開けたり、翌日に持ち越すようにしている。	1日おきの入浴ではあるが毎日入浴できるように準備している。時にはシャワー浴を行うなど臨機応変に対応し、利用者の意向や希望に応じて入浴できるように支援している。毎回、梅・ゆず・森の香りなどの入浴剤を入れている。入浴拒否があった場合は、翌日に入浴を振替えるなどの対応をしているが、現在、入浴拒否の方はいない。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時々状態に応じ休んで頂いている。また、夜間不眠時も考慮して様子を観察している。日中には、安眠できるようなレクリエーションも実施している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬には十分気をつけ、服薬して頂いている。誤薬のないよう声を出し、他の職員にも確認している。また、利用者の様子を観察し、変化に気をつけ、時には医師にも相談している。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	縫物、作品制作、生活歴を考慮して支援。時には希望の夕食等にも出かけている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物と一緒に外出している。また近くの公園にもよく散歩に行く。また、ご家族にも一緒に外出して頂くよう声かけなど行っている。受診後の夕食もよく行っている。	陽気や利用者の体調、希望に応じて、ほぼ毎日の散歩や買い物のほか、家族の協力もあり、太刀洗平和記念館や朝倉へのブドウ狩り、県民の森等へのドライブ、月1回程度の夕食など、利用者の希望にそって戸外に出かけられるよう、支援に努めている。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	時折、ご一緒にお買い物にも出かけ、支払いもご自分でされる場合もある。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が落ち着かれず（帰宅願望）等ある場合、電話にてご家族とお話できるよう支援をしている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	当ホームは環境整備には気をつけている。環境整備係をつくり共有空間には鉢物、季節を感じられる環境作りをしている。	広いリビングルームには、多人数が座ることができるソファのほか、テーブル・椅子、コーナーには畳間を設置し、落ち着いてくつろげる居場所になっている。壁面には利用者と職員の共同作品である秋の果物を立体的に飾り、季節感を取り入れ、居心地よく過ごせる共用空間になっている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアが応接室、食堂、畳の空間、思い思いの場所でくつろぎ生活過ごしておられる。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご本人の思い出の品や使い慣れた物などを持って来て頂き、戸惑いのない様に工夫している。	利用者が安らぎを得られるような寝具、馴染みの品々（テレビ・テーブル・椅子・仏壇・ラジカセ等）を持ち込み、壁には家族写真を飾り、それぞれの利用者がある人らしく、安心して過ごせる居室にしている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	室内、タンスなどには本人が理解できる様、仕分け記入したテープを用いている。厨房内の収納場所にも仕分けのテープで表示。3階4階のベランダ・居室や窓に夜間はブザーを設置している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 （参考項目：25, 26, 27）	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 （参考項目：20, 40）	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 （参考項目：40）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている （参考項目：38, 39）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：51）		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
			○	③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 （参考項目：32, 33）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 （参考項目：30）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	① ほぼ全ての家族と
				② 家族の2/3くらいと
				③ 家族の1/3くらいと
				④ ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	① ほぼ毎日のようにある
				② 数日に1回程度ある
				③ たまにある
				④ ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	① 大いに増えている
				② 少しずつ増えている
				③ あまり増えていない
				④ 全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	① ほぼ全ての職員が
				② 職員の2/3くらいが
				③ 職員の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての利用者が
				② 利用者の2/3くらいが
				③ 利用者の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての家族等が
				② 家族等の2/3くらいが
				③ 家族等の1/3くらいが
				④ ほとんどいない

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	その人らしい支援と言う事で申し送りGH会議などで、共有し実践し取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域のボランティアの受け入れ、公共施設の利用 又、同敷地内ケアハウスなどと交流も図っている。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等を通し、公民館、ふれあい館の利用を通して地域の理解を得ている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に行われるしい推進会議の中で年中行事、お誕生会他報告 ヒヤリ・ハット問題の開示、今後の取り組みサービス向上に向けている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の中で身体的問題の相談、ケアの進め方などアドバイス・指示を仰いでいる。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	当施設は4階建と立地面では問題等も残り帰宅願望者がエレベーター前に立たれた場合、階を変えユニットへの場面替えや外出に対応している。やむおえずロックはしているが、そのことでご家族に許可は得ている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	GH会議、申し送り等において人としての支援、問題なども常にご家族に報告、共有し理解して頂いている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域（市）の学ぶ機会を利用。参加はしているが今までに繋げる方はいなかった。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時の契約、説明の徹底は常に時間をかけて行っている。料金改定時も文章にて送付、理解・納得して頂いている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置はしているが、利用料支払い時、又はケアプランの作成に関しての要望などを聞きその都度希望に添える様に反映している。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの提案があれば、フロア会議などで話し合い反映している。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の特技を生かし、個別ケア・環境整備などに生かしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の採用に関しては管理者はあたらなすが1人1人のキャリア、人材育成には心掛け、生き生きと働ける環境が出来ている。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	まずは身近な申し送り、フロア会議などで人権尊重の話題に触れている。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での研修、地域医療連携研修、並びに資格研修など仕事に支障のない限り参加している。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ネットワーク作りまでは行っていないが、近隣の同業者との交流は時々行っている。同法人内のGHの交流はある。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人のこれまでの過ごされてきた、履歴・趣味などを元に本人の希望を少しでも支援出来る様関係作りに努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時の要望はしっかり受け止め、小さい事からお互いに共有し、今後に繋げている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	リハビリが必要な方などは、併設のPTのアドバイスを受けながら支援・納得に近づける様、努力している。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	台所仕事（茶碗洗い、包丁によるキザミ、味見）掃除、洗濯物干し等、日頃の生活を共に寄り添いながら生活している。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事（外食、ドライブ他）ご家族への参加頂き、又、野外バーベキュー等も一緒に楽しんでいる。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が以前通われた、友人などの受け入れもさせて頂いている。また同敷地内のケアハウスからも来られる時もある。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お一人お一人得意な出来る事を促し、手分けしながら日常の生活を支えあっている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設の施設に入られても職員が様子伺いに尋ねている。また、家族のフォローも行っている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	その人が何を望んでいるかを探し、おしゃれな方は化粧品、洋服等の考慮。時には食べたい物を聞き外食等に繋げている。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の生活歴は大切にしている。裁縫、料理、掃除、書道など生き生きと生活が出来る様努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来ないと決めつけず一緒に過ごしながらい出来ない方には個別に支援している。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の現状、生活歴等を元に話し合いの場を持ちご家族の想い、希望等を反映してケアプランの作成をしている。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランを元に日々のケースを記録。気付きがあれば色分けし、職員同士情報の共有を行っている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々ニーズに添い、利用者本人、職員が一緒になり柔軟な取組をしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア受入れの強化、持続性を繋げていける様、担当者を置き交流の場を展開している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院、訪問診療、月2回の心療内科の往診も受けている。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在、看護師の配置はないが併設看護師（老健）の指示も仰ぐこともあり。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院先のソーシャルワーカーとの連携を大切に今後の備えの努力をしている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当ホームでの看取りは行っていない。併設の特養、老健への移行の相談委員会の場を持ち支援している。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急搬送マニュアル作成、緊急連絡網の徹底、併設（老健）等の勉強会の参加。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練（年2回）行っている。非常階段は使用できない利用者が多いので、まずベランダへの避難誘導している。隣接の住宅との話し合いは行っていない。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として敬い、教えを頂く事もある。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者1人1人の希望が叶うように寄り添いながら努力している。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の体調を優先し、また個人の希望にも添えるように心がけている（個別ケアを大切にしている）		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	おしゃれが好きな方に対しては化粧品の準備、洋服の考慮、また外出時、行事等参加の時もサポートさせて頂いている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の食事の希望も取り入れ一緒に準備、片付け、収納等幅広く協力しながら生活している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事接種量の記入、体重の増減に注意し、水分補給は時間に応じて補給して頂いてもらっている。また本人が自由に飲用できるようになっている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケア（うがい）等の徹底、また夜間は義歯をお預かりし、口腔内の清潔を保持している。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄・排便チェック表の記入し、排便コントロール、トイレ誘導もさせて頂いている。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入浴時の腹満に気をつけ、その都度下痢のコントロール、食事の工夫、水分補給、運動等を取りいれている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	本人拒否がある場合は無理せず、時間を開けたり、明日に持ち越すようにしている。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時々状態に応じ休んで頂いている。また夜間不眠時も考慮して様子観察をしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬には十分気をつけ、服薬して頂いている。誤薬のないよう声を出し、他の職員にも伝わる様になっている。また、利用者の様子を観察し、変化に気をつけ時には医師にも相談している。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	縫物、作品制作、生活歴を考慮して支援。時には希望の夕食等にも出かけている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物と一緒に外出。また近くの公園にもよく散歩。またご家族にも一緒に外出して頂くよう声掛けなど行っている。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	時折、一緒にお買い物にも出かけ、支払もご自分でなさる場合もある。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が落ち着かれず（帰宅願望）等ある場合電話にてご家族とお話したりの支援をしている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	当ホームは環境整備には気をつけている。環境整備係をつくり共有空間には鉢物、季節を感じられる環境作りをしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアが応接室、食堂、畳の空間、思い思いの場所でくつろぎ生活過ごしておられる。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご本人の思い出の品や使い慣れた物などを持って来て頂き、戸惑いのない様に工夫している。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	室内、タンスなどには本人が理解できる様、仕分け記入したテープを用いている。厨房内の収納場所にも仕分けのテープで表示。3階4階のベランダ・居室や夜間の窓（ブザー）の設置		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
			○	③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	① ほぼ全ての家族と
				② 家族の2／3くらいと
				③ 家族の1／3くらいと
				④ ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		① ほぼ毎日のようにある
				② 数日に1回程度ある
			○	③ たまにある
				④ ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		① 大いに増えている
			○	② 少しずつ増えている
				③ あまり増えていない
				④ 全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	① ほぼ全ての職員が
				② 職員の2／3くらいが
				③ 職員の1／3くらいが
				④ ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての利用者が
				② 利用者の2／3くらいが
				③ 利用者の1／3くらいが
				④ ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての家族等が
				② 家族等の2／3くらいが
				③ 家族等の1／3くらいが
				④ ほとんどいない